

新規 Windows10PC は光電話対応機器に直結しよう

これは具体的にどのような場面を想定しているかというと：

光回線を導入している住宅で、光回線終端装置（GE-PON のような ONU）の先に光電話対応機器（例えば（12 年前の）NTT 東日本の RT-200KI）があつて、その LAN 端子と無線 LAN 親機（例えばバッファローの WZR-HP-G301NH/U）が接続されているという状況です。この無線 LAN に新規で Windows10 の PC を導入します。

また「直結」とは、通常 RT-200KI の取説に記載されているように PC と RT-200KI をストレート LAN ケーブルで接続することを意味します。

ただしある条件を満足すれば、無線 LAN 上のどの PC でも RT-200KI に直結されている事になります（後述）。

この例では無線 LAN の親機も子機（WLI-TX4-G54HP など）も Windows7 対応ですが、Windows10 対応ではありません。また LAN 上の PC はデスクトップ、ノートが混在し主力の OS は XP となっています。

ではなぜ新規導入する Windows10PC を RT-200KI に直結するのか？です。

それは（自動更新の設定さえしておけば）RT-200KI のファームウェアは常に最新の状態、つまり Windows10 対応になっているからです。

NTT 東日本とどのような光回線の契約をしているかにもよりますが、戸建でファミリー・タイプの契約をしている場合、光電話対応機器 RT-200KI はレンタル扱い（ただし無料）です。レンタル品だからこそ常にファームウェアの更新が行われている訳ですし、故障した場合は無償で最新の機器と交換してくれます。

さて、どのように新しい Windows10PC を RT-200KI に直結するか？です。

一番分かり易い方法は、前にも述べたように、この PC と RT-200KI をストレート LAN ケーブルで接続するというやり方です。

もうひとつの方法は無線 LAN 親機の ROUTER スイッチのポジション（ON, OFF, AUTO）を「AUTO」にすることです。

こうしておいて、無線 LAN 上の PC で「マイネットワーク」を開くと、ネットワーク機器として RT-200KI が表示されるはずですが。

もし ROUTER スイッチを「ON」にすると RT-200KI は見えなくなり、代わりに無線 LAN 親機（G301NH）が表示されます。

注 では「OFF」にするとどうなるのか？ 論理的には「AUTO」と同じ結果になるはず

ですが、G301NH の取説では「AUTO」にすることを推奨しています。

なぜこうなるのか？という理由ですが、ROUTER スイッチを「AUTO」にしておけば、ルーター機能を持っている上位の RT-200KI が自動的に優先され、無線 LAN 親機は単なるアクセスポイント（あるいはハブ）としての機能しか果たさなくなるからです。

注 この場合は RT-200KI でインターネット接続の設定をしておかなければなりません。

こうすれば新規の Windows10PC の為に無線 LAN 親機を Windows10 対応にする必要はなくなるわけです。

また、このやり方であれば Windows10 の次期 OS がどうなろうと、無線 LAN 自体はそのまま使い続けることができます。

そもそも PC も無線 LAN も何かやりたい事をやるための道具立てですから、手間や費用がかかり過ぎることは問題だと思います。

余談になりますが、バッファローの場合、無線 LAN 子機の現行品は USB 端子対応品ばかりです。LAN 端子対応品は絶滅寸前、特に 4 個の LAN 端子を持つ製品は皆無で中古品を探すしか手がありません。その理由はよく分かりませんが、経験上 LAN 端子を持っている無線 LAN 子機は意外に重宝します。

以上